

2019年度 校内研究のまとめ

1. 学校教育目標と校内研究との関連について

学校教育目標

グローバル社会の担い手として、未来をつくる就実の子を育む



目指す児童の姿（※イメージ教育と関連する項目）

◆誠実に生きる子 <素直で、誠意をもって行動する子>

* 「本ものにつながる教育」を充実し、日本人としてのアイデンティティを養います。

⇒日本のよさを実感し、他者へ発信できる場の設定

* 「就実型イメージ教育」を推進し、真の国際人を育成します。

⇒実践的な英語力を育成するためのカリキュラム作成・授業改善

⇒iPadの活用、プログラミング教育の推進

◆かっこいい子<自ら考え、よりよく振る舞う子>

* 全ての児童が、楽しく、分かる、できる授業を行い、学力向上に努めます。

⇒子どもの実態から考える授業づくり (2019年度 授業研究の視点①)

⇒主体的・対話的で深い学びの実現 (2019年度 授業研究の視点②)

⇒学びを実感できる振り返りの充実 (2019年度 授業研究の視点③)

2. 校内研究における2019年度～2023年度（研究5年目）までの当初目標

◆初期目標（2019年度）※本年度

児童の姿	どの学年においても、各イメージ教科が「とても好き」「好き」と答えられる児童を7割以上とする。
研究段階	各学年1回の研究授業や、校内専門部会による部会研究を行うことにより、よりよい就実型イメージ教育の方向性や指導の在り方を統一していくこと。

◆中期目標（2020年度）※全学年完成年度

児童の姿	どの学年においても、各イメージ教科が「とても好き」「好き」と答えられる児童を8割以上とする。（※今年度の研究成果から、2020年度修正）
研究段階【STEP2】	11月に就実型イメージ教育研究発表会を開催する。（学園外部へも案内） ※当初目標として設定していたが、修正し2020年度の研究方針を決定。

◆長期目標（2023年度）※研究スタートから5年目

児童の姿	どの学年においても、各イメージ教科が「とても好き」「好き」と答えられる児童を9割以上とする。
研究段階【STEP3】	※2019年度初め 未定

3. 2019年度校内研究の経過

2018年度末	STEP 1	これまでの課題の発見	昨年度末児童アンケートの結果からの分析
2019年度 4月	STEP 2	研究テーマの設定 今後の目標と方針の決定	学校教育目標 目指す児童像
2019年度 1学期～3学期	STEP 3	授業開発 研究実践	校内研究授業 研究協議会 校内研修 専門部会の設置
2019年度末	STEP 4	評価と今後の課題	年3回の児童アンケート 児童の学習の様子
2019年度末 ～ 2020年度	STEP 5	来年度に向けた取り組み	6カ年計画の作成 来年度の研究の重点

STEP1 2018年度末 これまでの課題を発見



【2018年度3月】第1回イメージンアンケート（児童）を実施

	1・2年（現2・3年生）	3・4年（現4・5年生）
English	1年生…90%以上の児童が「とても好き」または「好き」と回答。	学年が上がるにつれて、「好き」と回答する児童は減少傾向。4年生では、半数近くが「どちらかという好きではない。」と回答。
Math	80%の児童が「とても好き」または「好き」と回答。	
P.E	90%が「とても好き」または、「好き」と回答。	70%程度の児童が「とても好き」または「好き」と回答。
Art	全学年において、90%以上の児童が「とても好き」または「好き」と回答	

*P.EとArtについては、理解度・満足度共にどの学年においても高い傾向にある。

しかし、English・Mathについては、学年が上がるにつれて、「どちらかという好きではない。」と回答した児童が、約半数近くいた。（2018年度 児童実態調査より）

STEP2 2019年度初め 今後の目標と方針を決定



◆校内研究における2019年度目標

児童の姿 	どの学年においても、各イマージョン教科が「とても好き」「好き」と答えられる児童を7割以上とする。
研究段階 	各学年1回の研究授業や、校内専門部会による部会研究を行うことにより、よりよい就実型イマージョン教育の方向性や指導の在り方を統一していくこと。



2019年度 校内研究テーマ
児童一人ひとりが「楽しい、分かる、できる」
と感じられる『就実型イマージョン授業』の開発



さらに具体的にポイントをしぼる。

授業研究・授業開発のポイント
「楽しい！分かった！できた！」と実感できる English・Math

研究の初年度となる2019年度は、授業研究を柱とし、すべての児童が「楽しく、分かる、できる」と実感でき、児童一人ひとりが主体的・対話的で深い学びを実現することができる授業の開発を進めていった。

授業開発以外の具体的な方針

①各学年団〈担任（日本人）＋副担任（イマージョン）〉

⇒英語に触れる、英語を活用する場面を増やす。イマージョン教員が学校行事や校外学習においても各学年団の児童と積極的にふれあうことにする。朝の会・帰りの会、給食時間等、日常生活におけるあらゆる場面において英語を活用する機会を大幅に増やす。

②iPad（教材）の活用

⇒子ども達の知的好奇心を引き出し、自主的に学習に取り組もうとする姿勢を育成する。
⇒個々の習熟度に応じた内容や課題を与えることについても、研究を進めていく。

③児童の身の回りの環境調整

⇒学校内掲示物、放送、朝会等、身の回りのイマージョン環境をさらに整えていく。

④イマージョン教科に関する実態調査（児童アンケート）

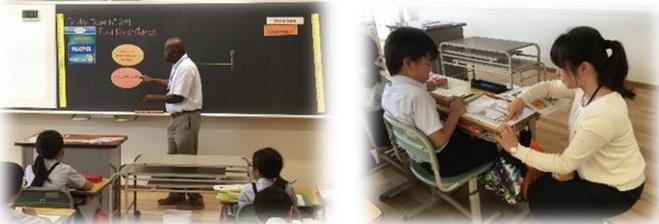
*年3回・・・実態調査アンケートを実施（7月・12月・3月）

STEP3

2019年度1学期～3学期 授業開発・研究実践



◆実践① 校内研究授業の取り組み（年間5回）

第1回	第2回
<p>6/14（金）3年B組【Math】</p>  <ul style="list-style-type: none"> • 視覚的教材の工夫による理解のサポート。 • クラスや児童の実態に応じた担任によるきめ細やかなサポート。 	<p>9/20（金）5年B組【English】</p>  <ul style="list-style-type: none"> • 児童の意欲を引き出す導入や活動の工夫 • 授業における積極的な iPad 活用
第3回	第4回
<p>10/11（金）4年B組【Math】</p>  <ul style="list-style-type: none"> • 発表方法の工夫～メディア機器を利用したペアによる共同発表～ • 授業の振り返り～できるようになったこと・今日分かったことなど～ 	<p>12/6（金）2年A組【English】</p>  <ul style="list-style-type: none"> • 日本人教師(担任)による積極的な指導 • 活動におけるルールの徹底と友だちとの学び合い
第5回	
<p>2/7（金）1年B組【English（少人数指導）】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1年生時の少人数指導 • 独自教材の開発と活動の工夫 ⇒センターアクティビティ • 児童一人ひとりのペースや実態に応じた指導 	

各研究授業後の研究協議会の様子より

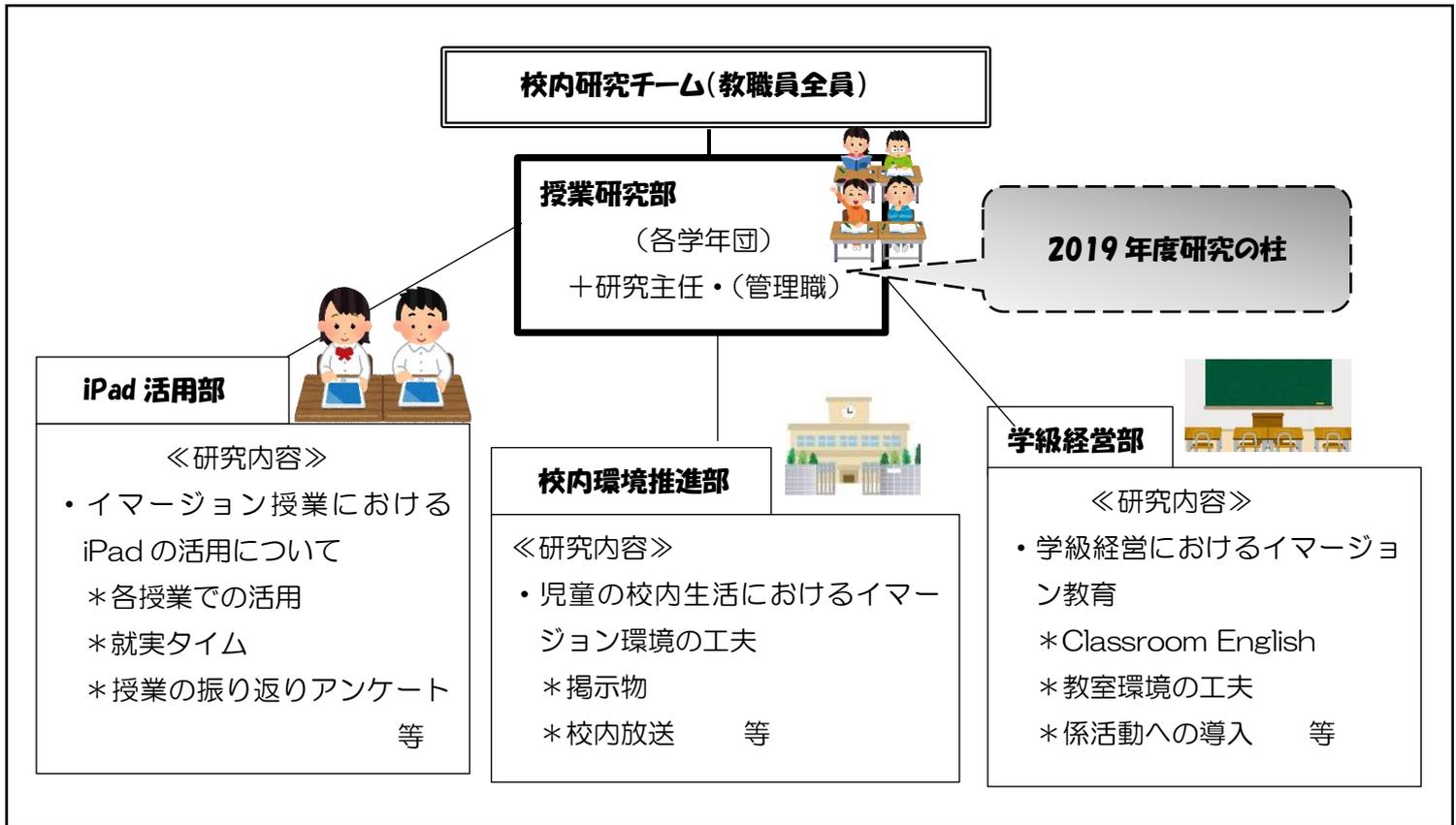


研究授業後は、よりよい授業開発のための様々な観点に基づき、全教員で協議を行った。研究授業後は、よかった点や課題を見つけ、その後の授業に生かす取り組みを日常的に進めていくことができ



◆実践② 各研究部会における取り組み

授業研究を柱としながら、その他3つの専門部に分かれて、児童の生活環境の調整や学級での取り組みを強化した。



iPad 活用部の取り組み例



English 就実タイムでの活用 (Reading, Listening)

授業の振り返り (授業ノートの提出, 振り返りを声で録音)

学級経営部の取り組み例

使ってみよう!
フレーズの掲示

教室環境の工夫



副担任による朝の会・帰りの会

校内環境推進部の取り組み例

English による校内放送

朝、お昼の校内放送、下校放送、掃除時間など放送はすべて放送委員会による English 放送になった。

校内掲示物の工夫



児童が English にひたる環境づくりを行えるよう、様々なアイデアを出しながら専門部ごとに活動を進めていった。来年度以降も引き続き、校内における英語環境を整えていく必要がある。

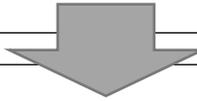
STEP4
2019年度末
現段階での評価と課題



2019年度目標の、「全学年において70%以上を上回る」を達成することができた。

2018年度末

3・4年生（現4・5年生）の「English・Math」に関する調査結果では、約半数の児童が「あまり好きではない。」と回答していました。

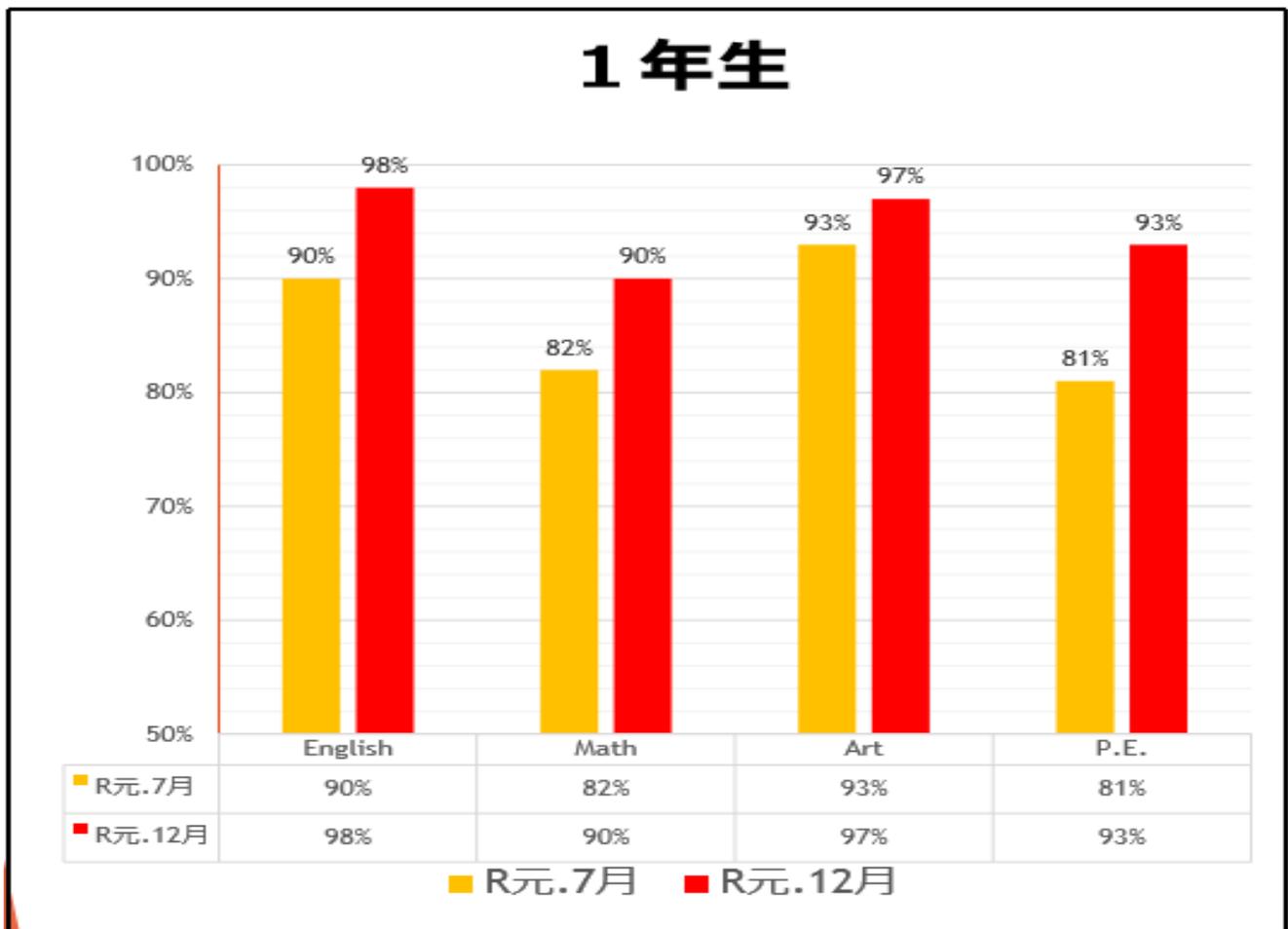


2019年度（イマージョン研究初年度）

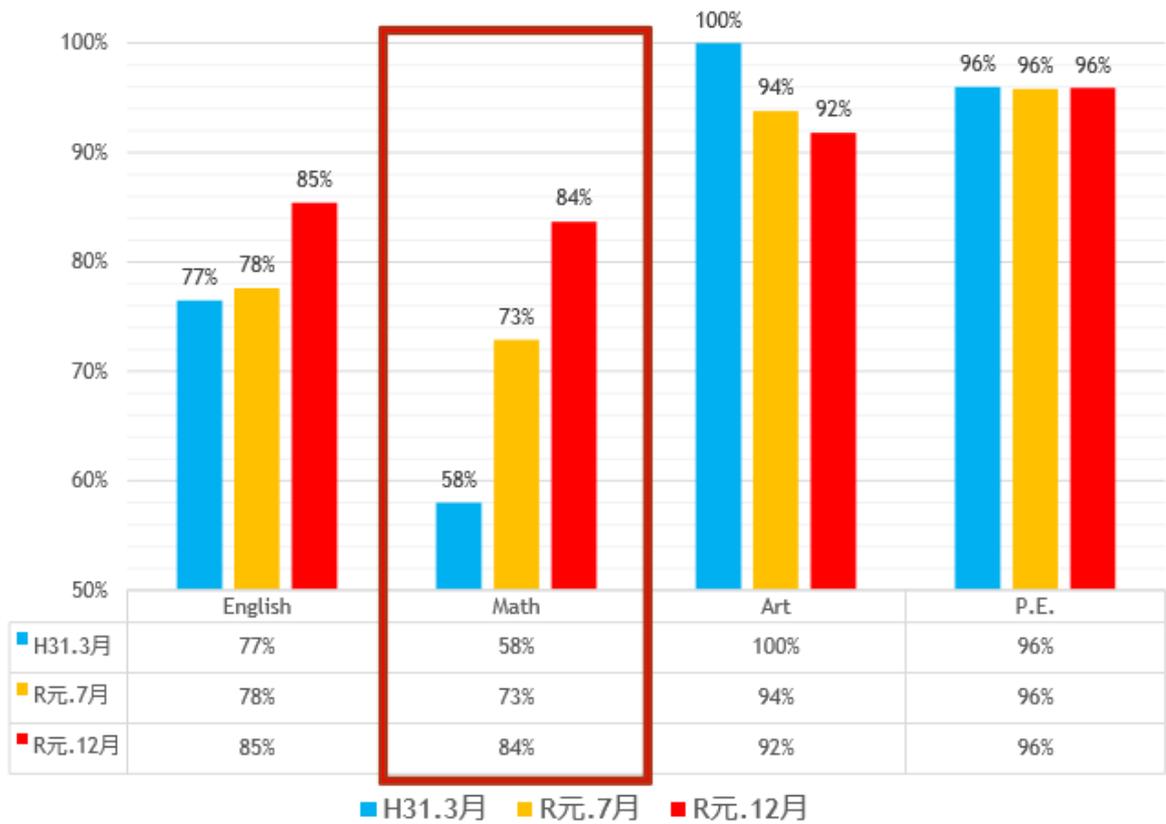
昨年度3・4年生（現4・5年生）の「English・Math」に関する調査結果で、90%以上の児童が肯定的な回答となっており、「授業が楽しい」と感じられる児童が増えたことは、イマージョン教育に対する児童の意欲面・理解度の向上において大きな成果の一つだと言えます。

◆児童アンケートによる、イマージョン教科に関する意識調査の推移（2018年3月→2019年7月→2019年12月）

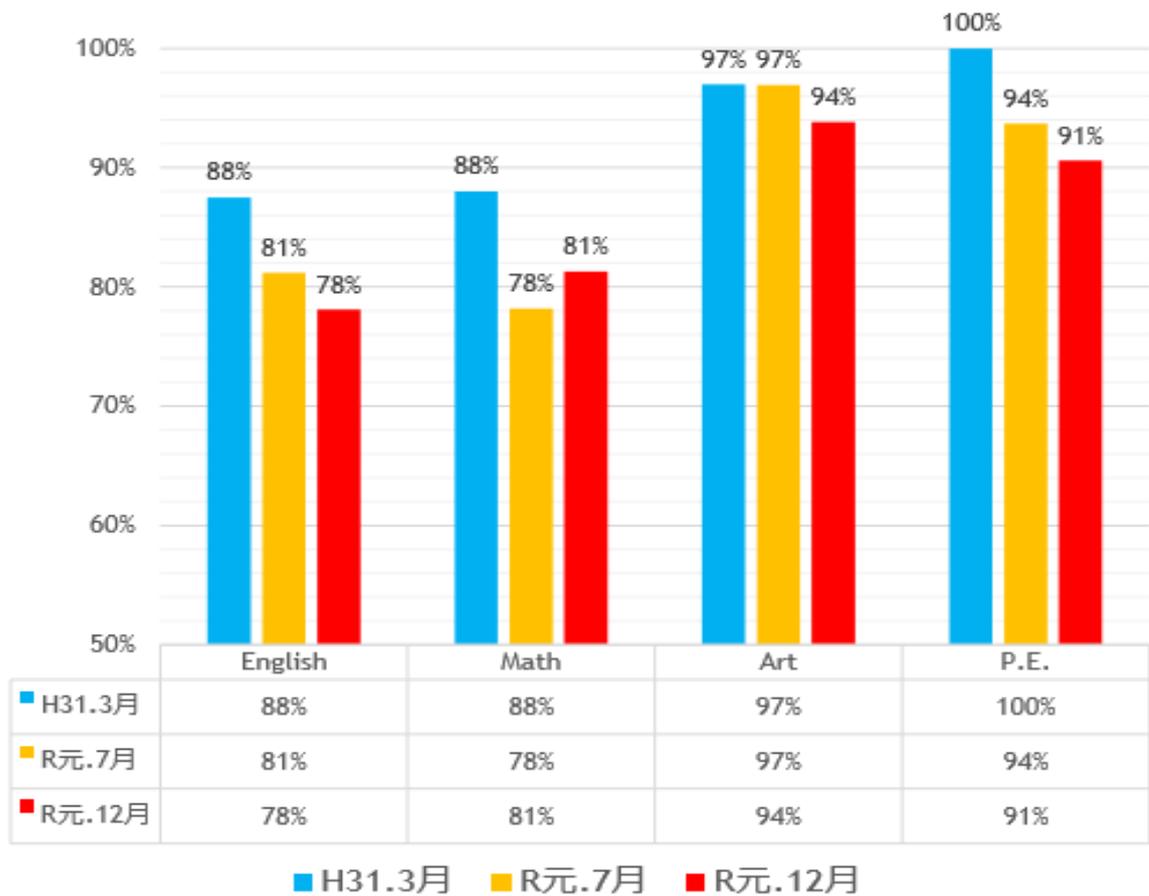
各イマージョン教科について、「とても楽しい」「楽しい」と答えた児童の割合



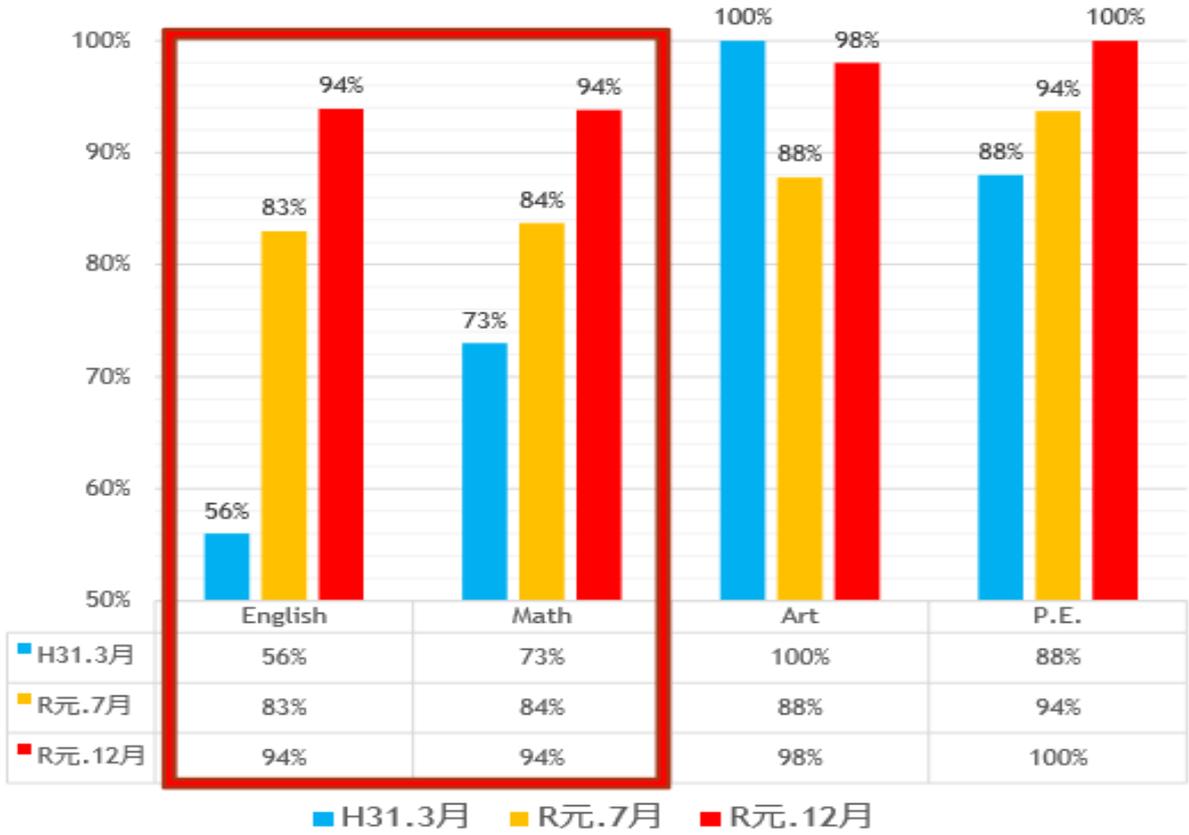
2年生



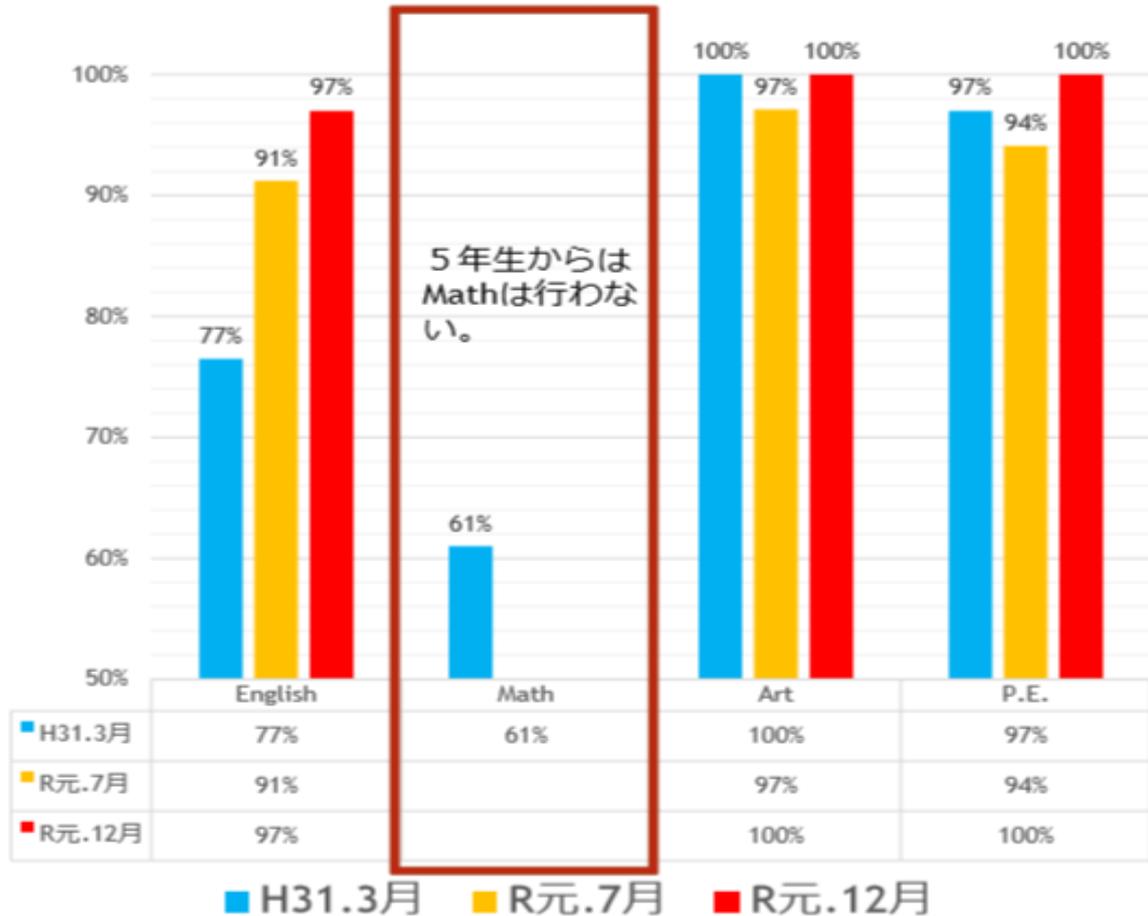
3年生



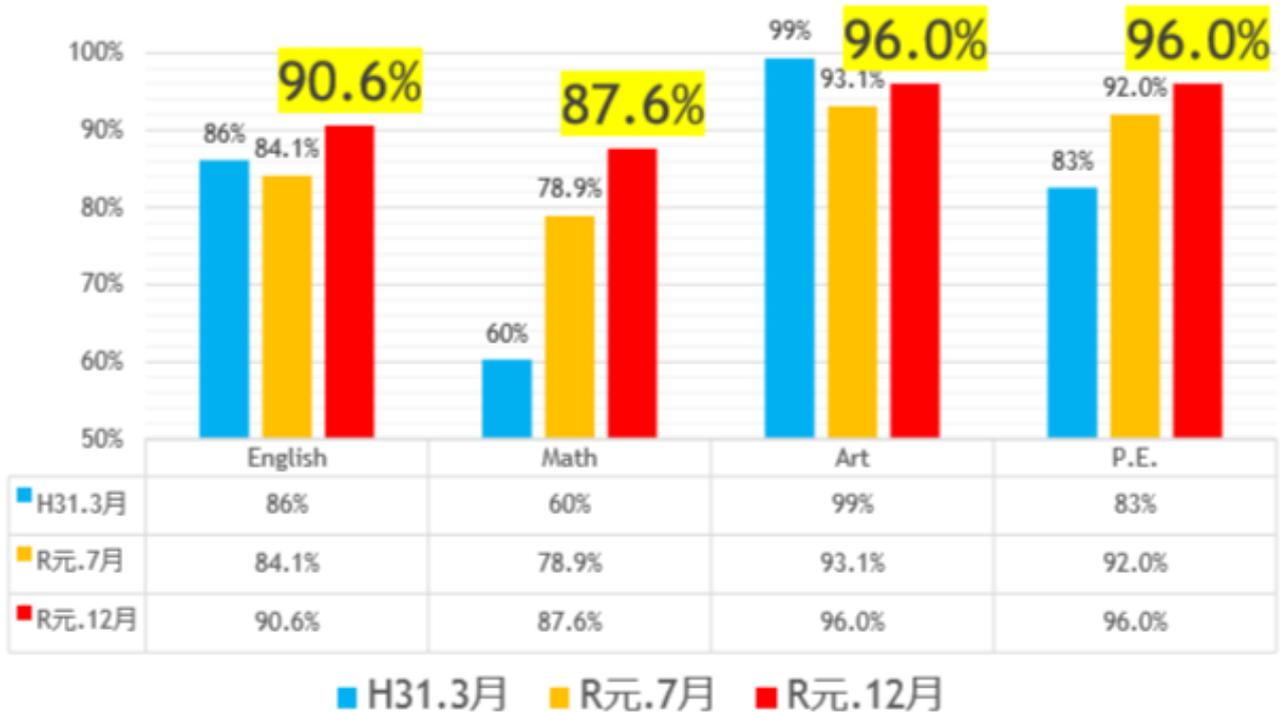
4年生



5年生



全学年平均（H31～現在までの比較）



◆研究の成果と課題

- 全体としては、児童の意欲面の育成において目標値を大きく上回る成果となりました。しかしながら、これが全児童において達成できているわけではありません。一人の児童も見逃すわけにはいきません。

➡ 一人もとりこぼすことがないよう、個別でのきめ細やかなサポートに関する研究が必要。

- Englishにおいては、「Listening」「Speaking」「Reading」「Writing」の各技能の育成において、ばらつきがあります。（日常的な学習の様子とケンブリッジ英検の結果から考察）

➡ 「Reading」と「Writing」に関して、技能面の向上を図るための研究が必要。（※2020教育改革でも、取り上げられています。）

- 今年度、時程を大きく変更したことで、教職員の校内研究や研修等の時間を毎週金曜日に確保することができました。このことにより、年間を通して指導者の指導技術の向上、よりよい教材開発を進めていくことができるようになりました。

➡ 全学年において、同質かつ質の高い授業と、児童の実態に合わせた更なる授業開発を進めていくことが必要。

STEP5

2019年度末～2020年度 来年度に向けた取り組み



今年度の研究から見えた課題を改善していくため、今後もよりよい指導について研究を続けていくことが必要である。今年度の研究結果を踏まえ、入学～卒業時までのより明確な見通しを持つことができるよう、以下のような①English 学年系統表を本年度作成した。

就実小学校 English 各学年使用教材、到達目標等の目安 (2020年度～) 2020年2月14日現在

	選指導時数	使用教材	ネイティブ対応学年 (年齢)	Cambridge 英検	CEFER (3-19歳) (各級共通到達目標)
1年生	英語活動 1時間/週 English (少人数) 3時間/週 就業タイム 15分×4回/週	Jolly Phonics Journeys textbook 1.1 (Lesson1.2) Oxford Reading Tree My First Dictionary <small>1 Lesson1 は 2 学期末から Lesson2 は 3 学期初めからスタートする。(学校共有教科書を使用)</small>	4, 5 歳	Starters (可能であれば)	preA1
2年生	English (一斉) 4時間/週 就業タイム 15分×4回/週 (15分 Size Speaking test)	Journeys textbook 1.1～1.2 (学校共有教科書の使用・オンライン教材) Oxford Reading Tree	就学前～1年生前半 (6, 7 歳)	starters	preA1
3年生	English (一斉) 4時間/週 就業タイム 15分×4回/週 (15分 Size Speaking test)	Journeys textbook 1.2～1.3 (学校共有教科書を使用・オンライン教材)	1年生前半 (7 歳)	Starters ～Movers	PreA1～A1
4年生	English (一斉) 4時間/週 就業タイム 15分×4回/週 (15分 Size Speaking test)	Journeys textbook 1.4～2.1 (学校共有教科書を使用・オンライン教材) Journeys Reader's Notebook 1.2～2.1	1年生後半～ 2年生前半 (7, 8 歳)	Movers～Flyers	A1
5年生	English (一斉) 5時間/週 就業タイム 15分×4回/週 (15分 Size Speaking test)	Journeys textbook 2.1～2.2 (学校共有教科書を使用・オンライン教材) Journeys Reader's Notebook 2.1～2.2	2年生後半 (8, 9 歳)	Movers/Flyers KET	A1～A2 (中2～高1)
6年生	English (一斉) 5時間/週 就業タイム 12020年度より 15分×4回/週 (15分 Size Speaking test) <small>※実施別指導を導入</small>	Journeys textbook 2.2～3.1 (学校共有教科書を使用・オンライン教材) Journeys Reader's Notebook 2.2～3.1	3年生 (9 歳)	Movers/Flyers KET/PET	

2年生より、ケンブリッジ英検の受験を推奨。(9月5日(土)実施予定)

6年生卒業時までに、ケンブリッジ英検を全員受験できることを目標とする。4つのうちのいずれかひとつ(または2つ)を受験することを卒業時までの最終目標とする。

また、各学年の②イマージョン教科指導計画と③English 評価規準表を本年度作成することができた。2020年度以降の計画的な指導と評価に生かすこととする。

①English 各学年系統表 ②イマージョン教科年間指導計画 ③English 評価規準表は、別紙の通り。

来年度以降も、研究の中期・長期目標に沿って校内研究を継続していくこととする。